山縣（修道高）圧勝V

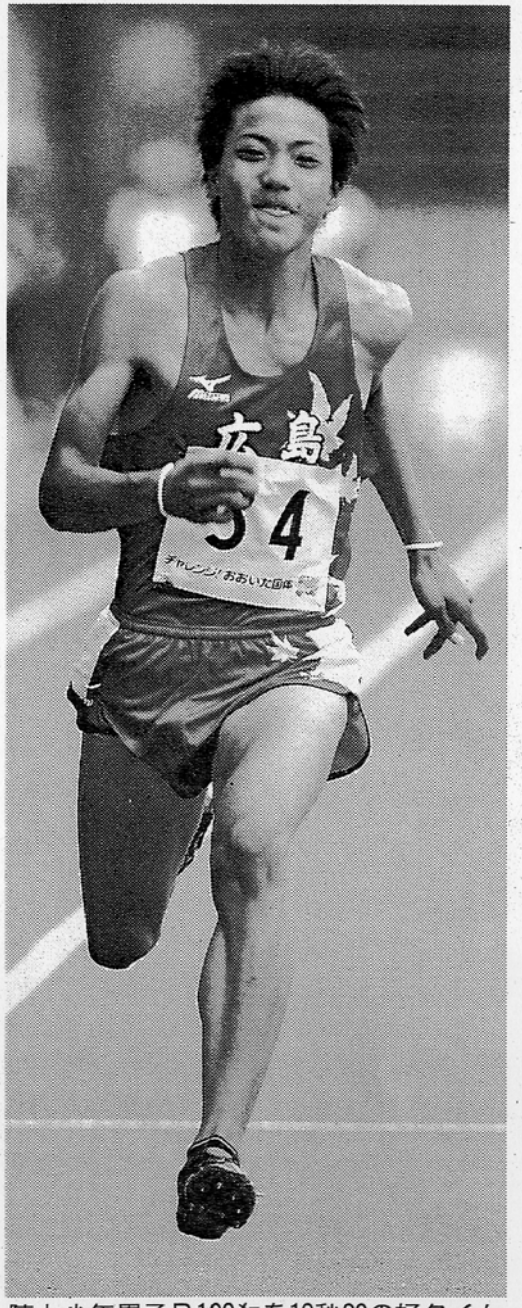
陸上少年男子B100

「中盤以降伸びた」

勢いそのままに、頂点へ駆けのぼった。予選、準決勝をトップ通過した陸上少年男子B百㍍の山縣が、決勝も10秒66で快勝。「（予選以降に）いきなり優勝候補になって緊張した。勝ててほっとした」。慣れぬ優勝インタビューに、初々しく声を震わせた。

予選からの3レースいずれも、スタートから加速、そして後半のダイナミックな走りで、高校1年生のライバルや中学チャンピオンを圧倒した。今季から四百㍍にも取り組み、「以前は得意のスタートだけだった。中盤以降に伸びるようになった」と急成長で、初の全国タイトルをつかんだ。

進学校で、勉強と陸上に「集中力」で臨む。中学1年から、同級生と不動のメンバーで組む四百㍍リレーの第1走者。9月にあった広島県の新人大会を1年生4人で制した。「リレーでも全国を狙う。今の自分に負けないことが目標なので、もっと速くなりたい」。表彰台の最上段に立ち、さらなる高みを見上げた。（山本修）



陸上少年男子B100㍍を10秒66の好タイムで制した山縣（撮影・坂田一浩）

来海（平田高）が大会新

少年女子B1500

○…見事なラストスパートを放った来海＝写真＝が、陸上少年女子B千五百㍍を4分21秒13の大会新で制した。「うれしいとしか表現できない。先頭で走った最後の直線は最高に気持ちよかった」と、涙声でレースを振り返った。

出雲旭丘中時代の昨年、全国中学校大会で2位。「今度こそ」という強い気持ちで勝ち、自己記録を8秒も伸ばした。初の全国高校駅伝出場を目指す平田高の1年生エースは、「今後はもっと長い距離で勝負したい」と自信を深めた。

久保倉が日本新

成年女子400障害

○…北京五輪で準決勝に進んだ自信が生みだした走りだった。陸上成年女子四百㍍障害で久保倉が自身の日本記録を0秒25更新する55秒46をマーク。「勝つことしか考えなかった。今でも時計のミスじゃないかと思う」とゴール後は驚きの表情をみせた。

来年の世界選手権（ベルリン）A標準の55秒50をクリアし、再び世界に挑む。「準決勝で勝負したい。程遠いと思っていた54秒台も、少しレベルを上げれば届かなくはない」

■末続が体調不良で欠場　北京五輪の陸上男子四百㍍リレーで銅メダルを獲得した末続慎吾（熊本・ミズノ）は4日、体調不良のため大分国体を欠場することを明らかにした。

○…空手の成年男子組手重量級で優勝した井渕は「昨年からお世話になっている山口県に恩返しできた」と

飯島首位に並ぶ

宮里4位

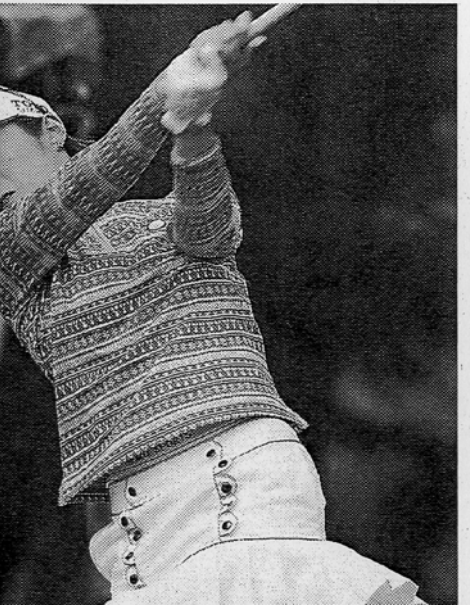
ゴルフ

日本女子オープン　第3日

（4日・新潟県紫雲GC＝6484ヤード、パー

8位からスタートした飯島茜がボギーなしの3バーディーで69をマークし、通算1アンダーの215で李知炫（韓国）と首位に並んだ。宮里藍は72で回って2打差の4位につ

宮里と1打差の7位が不動裕理と米山みどり。上田桃子は7番（パー3）でホールインワンを達成したものの72とスコアを伸ばせず、68をマークした横峯さくらと並んで通算3オ



れ、陸上成年女子四百46の日本新記録で優勝ムで5連覇した。少年空手は成年男子の組関係分）